

2007年(平成19年)7月31日(火曜日) 4

# 地域の介護力向上へ

## 8月4日 鴨川で床ずれ防止の講演会

床ずれ(褥瘡)の予防や治療法の研究をはじめ、高齢者問題に取り組むNPO法人床ずれ研究会(久保忠一理事長)は、8月4日午後1時から鴨川市の「ふれあいセンター」で、一般市民や医療・介護事業関係者を対象に、床ずれ発生のメカニズム、介護法などの講演会を開く。

床ずれは、自分で体の向きや位置を変えることができない、寝たきり老人などに多く発症し、重症になると命にかかわることもある。高齢化社会が進展する中で、寝たきりから発生する床ずれが問題となっており、予防や治療法の確立が急がれている。

同研究会は、専門研究機関が少ないこの分野において、医師や薬剤師、介護者など、さまざまな視点から予防や治療、薬品、機器などの研究に取り組み、スタンダード治療法の確立につなげよう、と今年2月に18人の会員で発足した。

講演会は、高齢化が著しい地域において、患者を抱える家族の介護力アップと、医療機関や行政などへの啓蒙活動として、安房医師会、県薬剤師会館山、鴨川の両支部などの後援で、初めて開かれることになった。講師は、理学療法士で帝京平成大学専門学校理学療法学科長の長尾邦彦氏。筑波大学教育研究科リハビリテーションコースを修了後、筑波大学医療技術短期大学などの講師を経て現職。高齢者の体の動きに熟知し、各地の医療・介護施設で指導にあたり、高齢者医療の質向上に貢献している。

止のリハビリ、介護法などについて講演する。

聴講は無料で、対象は一般市民、介護者家族、医療・介護事業関係者、保健推進員など。希望者は、当日直接会場へ。問い合わせは、同会事務局(090-7402-3941、ファクス04-7093-6030)へ。